

岐阜分室だより「総合学習の実践」



岐阜分室長 大河内八郎

いよいよ4月から実践社会の勉強が子供達に与えられた。ひ弱な子供が太陽光線を一杯に浴び、各自課題に取り組む、小学校から中学まで、総合学習のカリキュラムを実施する。既に試行的に取り組まれた先生方のご苦労を垣間見ることができました。今回は河川を題材にカリキュラムを組まれた先生や子供達の意見や要望を、子供たちの目を透してご紹介いたします。

「川は危険だから行かない」、「ここでは良い子は遊ばない」、「危険だから入らない」等々の看板が目につきます、「僕たちは川には行って魚をつかむことを知らないのです、掴み方の加減がわからないのです。」夜店で金魚すくいし、金魚を手にとったら、金魚は僕の手の熱さで火傷しないように暴れていることなぞ解らないのです、逃がしてなるものかと「ギュ」と掴んだら動かなくなりました。

お店のおじさんに怒られたアァ・・・。



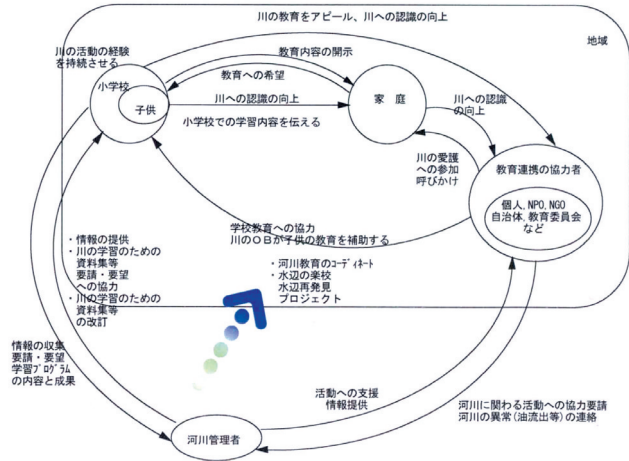
こんな子供達が増えています。川を身近に与えなかった河川管理者の政策がこの子供達の言葉なのです。現在は積極的に各地で総合学習のテーマとして身近な川や道路等に取り組んでいる先生と子供達にパンフレットや出前講師或いは現地指導を行い積極的に総合学習を支援しています。また県や市からも総合学習の参考資料が作られています。支援団体として各種法人等からは助成事業が進められています。当りパーフロントでは「川に学ぶ」助成事業を進め、学校や市民団体に支援しています。

庄内川の取り組みとして「川における教育連携の枠組み」が作られ、河川管理者と学校、自治体、NPO等で積極的に教育連携が進められております。

岐阜県においては各建設事務所を対象校と総合学習を進め、出前講師、現地説明会等実施し、子供達や先生から好評を得ています。最後に全対象校の先生方と学識者と河



総合学習パンフレット



川における教育連携の枠組み



生物採取状況

川管理者で座談会形式による意見交換会を実施しました。先生方から子供達が積極的に自分の周りのことに興味を持ちいろいろ川の歴史や生き物、ゴミの問題、工事は何故必要か、自分たちが出来る社会活動と言った活動内容が先生から報告されました。先生方も総合学習を進めるにあたり資料提供や講師、現地案内など事務所の担当者の方に協力が得られたことに非常に感謝されていました。これからも協力をお願いされました。

学識者からは学校として、また先生が今後総合学習を進める上で必要なポイントや川との付き合い方や川の知見を講演していただき、またNPO代表からは実践活動が報告がされるなど皆、興味深く聞かれておりました。

私も今年3月に高校の出前講師を行い小、中、高、大と一通りの出前講師をしましたが、生徒達も外部講師であると興味津々で何を話してくれるか楽しみにしております。特に低年齢ほどその期待と反応が大きく、話をしても表情がどんどん豊かになる。特に小中学生は身近に住んでいる生き物の昆虫、魚、鳥、爬虫類等と植物の話を写真や絵を交えながら、生きている環境、生態の話をするに興味を持って聞いてくれます。子供の頃から動物や昆虫類と接する機会の少ない子供にとって良い勉強になります。河川管理者も総合学習の機会を捉え、自然とのふれあいの出来る場や機会を作ることが川の理解を深めるものであり引き続き進めることが必要である。